

イノベーションの推進と新しい価値の創出

オカムラグループは、オカムラウェイの中で「人を想い、場を創る。」を掲げ、さまざまな施設に優れた製品とサービスを提供することで、快適で創造性や効率性が高く健康に過ごせる最適な空間を提案しています。また、新たな視点から、働くことに関する調査・研究を行うとともに、共創による事業や情報発信を通して、新たな価値を創出していきます。

イノベーションの推進

オカムラのDX戦略

オカムラでは、変化の激しいビジネス環境下で多様化するニーズや働き方の急激な変化、社会課題に柔軟かつ機動的に対応するため、AI・IoT・ロボティクスなど、先端のデジタル技術を活用し、DX推進を強化しています。各事業における製品・サービスに対するDXや、さまざまな業務プロセスにおけるDX、データを活用した経営管理の高度化、DX人財の育成、システム基盤強化などのDX戦略に基づき、お客さまの体験価値向上と業務の効率化に向けて、DX推進に取り組みます。経済産業省が定めるDX認定制度に基づく「DX認定事業者」の認定を2023年5月1日に取得しました。



DXラーニングプラットフォーム (DXLP) の取り組み

「DXラーニングプラットフォーム (DXLP)」は、オカムラグループ内の幅広い領域でDXリテラシーの高い人財を育成することで、現場からDXアイデアが湧き上がる文化を醸成することを目指した取り組みです。

社内でもDXに興味のある受講者を募り、デジタル技術やデザイン思考などを学んだ上で、新規事業や業務改善の提案を行い

ます。特に優れたものは社長・役員プレゼンを行い、そのうちのいくつかは実現に向けてプロジェクト化しています。従業員が日々の業務で感じている課題をDXに照らし合わせて、

どのようにデジタルを生かしていくことができるかを考えることで、デジタルを学ぶだけでなく、トランスフォーメーションを生み出すことを目的としています。(関連 ▶P.91)

VOICE



(当時) オフィス環境事業本部
業務統括部
業務推進グループ
業務推進担当
灘地 将

メタバースの取り組みへの挑戦

最新のテクノロジーについて学び、業務に生かしたいと考えてDXLPに参加しました。特にVR・ARの技術に衝撃を受け、近い将来働く場としてのオフィスはメタバース上にシフトする可能性があると感じ、オカムラのメタバース参入を提案しました。

3月には、フラッグシップシーティング「Contessa」の20周年モデル発売を記念したメタバースイベント「バーチャル出荷工場ツアー」を開催しました。VR空間を制作できる社内のデザイナーやSNSマーケティング担当者など、部門の垣根を越えたさまざまな人たちの力を合わせることで、イベントを成功させることができました。メタバースならではのワクワク感を重視してオカムラファンを獲得する狙いでしたが、採用活動への寄与など、当初想定していなかったポジティブな効果もあり、頑張って実施した甲斐があったなあと素直に嬉しく思います。

今後もメタバースへの取り組みに挑戦し、リアルとバーチャルの両方で「人を想い、場を創る。」ことができるオカムラを目指します。同時に、テクノロジーは日々進化し続けているため、DXのためのインプットも継続していきます。また、オカムラがボトムアップの提案に耳を傾けて、実現まで後押ししてくれる会社であることを身をもって実感したので、やりたいことにチャレンジする人がもっと増えるように活動していきたいです。



メタバースイベント会場



イベントの様子

コワーキングスペースや 共創空間構築における3社協業

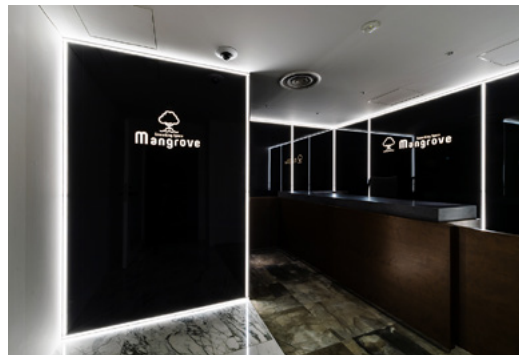
コワーキングスペースやシェアオフィスなどのサービスオフィスは、さまざまなコンセプトや利用者同士の交流・共創を促す仕掛けを含めた店舗が数多く展開されており、自治体の後押しやワーケーションの広がりにより、都市部だけでなく地方でも普及を見せています。

沖縄セルラー電話株式会社様は、ワーケーション需要やITベンチャー企業などの多様な働き方を柔軟に受け入れる場として「コワーキングスペースMangrove by 沖縄セルラーフォレストビル」を開設しました。施設構築にあたっては、施設のコネクト策定と内装設計、プロジェクトの進行マネジメントをオカムラおよびグループ会社のエフエム・ソリューションが担当。施設の運営にあたっては、運営支援業務をエフエム・ソリューション、企画支援をコワーキングスペースの運営立上げ支援と運営業務を行う株式会社ATOMica（アトミカ）が担当し、施設構築において3社で協業を行いました。

また、企業のオフィスには、部門を越えた立場の違う人たちが課題解決や価値創造を行うための共創空間が設けられることが多くなりました。キリンホールディングス株式会社様では、オフィスの改装に伴い共創空間を設けており、オカムラが構築した共創空間に対して共創活性化支援をATOMicaが実施しています。

オカムラとエフエム・ソリューションは、これまでに携わってきたオフィス構築や企業内共創空間づくり、働き方に関する知見やオフィスにおける共創の場づくりのノウハウの蓄積を生かしたオフィス環境づくりを行っています。ATOMicaは、コワーキングスペース事業を展開し、共創を持続的に生み出す仕組みであるソーシャルコワーキング®の企画、開発、運営を行っています。今後も3社の強みを生かして、施設の企画、空間

構築、運営立上げ支援、運営までトータルサポートするサービスを提供し、共創を体現する場づくりを実現していきます。



コワーキングスペース
Mangrove by 沖縄セルラーフォレストビル

ハイブリッドワークとクリエイティビティに 関する共同論文の発表

オフィスとオフィス以外を使い分けるハイブリッドな働き方が広まる中で、クリエイティビティ（業務における望ましい結果・創造／革新行動）につなげるには、どの場所でどれくらい働くか、オンラインのコミュニケーションツールをどう使うのか、といった課題について指針となる知見が求められています。

オカムラと国立大学法人東京大学大学院経済学研究科 稲水伸行准教授の研究室、ディスカバリーズ株式会社が共同でハイブリッドワークの研究を行っており、論文「時間展望とクリエイティビティ：細かい時間単位の行動データを用いたハイブリッド・ワークの分析」を、組織学会学術誌『組織科学』に共同で発表しました。

この研究では、オフィスの使い方というオフラインでの行動と、チャットなどのオンラインでの行動の両面から、ワーカーの行動を分析・検証し、働く場所、ツールの使い方、時間の配分の仕方と、クリエイティビティの関連性を明らかにしました。

ピッキング支援ロボット導入で ヒトとの協働環境を提案

小売業では、人手不足や従業員の高齢化、購買方法の多様化への対応など、生き残りのための特長づくり、強みづくりがより一層重要となってきました。

オカムラは、食品流通業界の商談展示会「第57回スーパーマーケット・トレードショー 2023」にて物流施設向けの自律型協働ロボット「PEER (ピア)」を活用した店舗の新しいピッキング作業を紹介しました。店舗スタッフ1名に対して複数のロボットが作業支援することで、省力化・省人化を実現する新しい試みです。

例えば、ネットスーパーのオーダー内容に基づき店内のピッキングルートを自動設定し、商品の検索と搬送はロボットに任せて、ピッキング作業は人が行うことで、より効率を高めることができます。また営業中の店内でロボットがおすすめ商品のサンプル紹介や情報発信などプロモーション支援を行うようにプログラミングすることもできます。

単純作業はロボットによって自動化し、人はヒトにしかできない作業に集中することで、新しい商空間の可能性を広げます。



ピッキング支援ロボットを活用した店舗空間の提案

働き方・働く場に関する 調査・研究と情報発信

社会構造の変化や技術の進歩、ライフスタイルの多様化などを背景に、働き方や働く場のあり方、生活における仕事の位置づけなどを見直す動きが広がっています。オカムラではこうした状況を踏まえ、新たな視点から、働くことに関する調査・研究を行うとともに、さまざまな企業、大学など広範な分野の方々との連携や情報発信を進めています。

働き方・働く場に関する 調査結果・レポート・書籍の発行

オカムラでは、1980年より働き方や働く場に関する研究所を設け調査・研究を続けています。社会の動向や人々の意識の変化を捉え、その中から研究テーマを設定し、大学や研究機関などさまざまな専門分野の研究者と連携しながら一步先の働き方と働く場を探索しています。研究結果や知見は、各種学会や研究会、研究冊子・ウェブサイト「KNOWLEDGE」などを通して、広く社会に発信しています。

2022年11月に「はたらく」にまつわる研究データを集めた「KNOWLEDGE - WORK DESIGN REVIEW 2022」を発行しました。「健康」「利他・ダイバーシティ」「地球環境」に配慮した働き方を「エシカルワークスタイル」と定義し、これをテーマにこれからの働き方を考えています。また、オフィスにおけるチームの拠点、オフィスの空間構成と座席の捉え方、有識者へのインタビュー、納入事例なども紹介しています。



「KNOWLEDGE - WORK DESIGN REVIEW 2022」(2022年11月)

オフィスの働き方・
働く場の研究と視点
<https://www.okamura.co.jp/office/knowledge/>

「WORK MILL (ワークミル)」の活動

オカムラは、働き方や働く場をさまざまなステークホルダーとともに描き、「はたらく」を変えていくことを目的として、「WORK MILL」の活動を推進しています。「WORK MILL」という活動名には、これまでの当たり前にとらわれず、「さまざまな視点で(見る)」、「価値を挽き出す(MILL)」の2つの意味を込めています。多様な人たちとのオープンな共創プロセスのもと、「すぐに見られる」ウェブマガジン、「手に取れる」雑誌・冊子、「訪ねに行ける」共創空間を中心に活動を展開しており、共創による価値創造や、目的や志を共有できるコミュニティづくりを目指しています。

この活動は、「2019年度グッドデザイン賞」を受賞しています。

WORK MILL

WORK MILL
<https://workmill.jp/>

共創空間での活動

オカムラは「はたらく」をテーマとした共創空間として、Open Innovation Biotope“Sea”（東京），“Cue”（名古屋），“bee”（大阪），“Tie”（福岡）の4カ所を開設、運営しています。ウェブサイトなどでイベント情報を公開し、誰でも参加できる場としての機会提供のほか、お客さまや地域の方、学生などさまざまな方の課題解決や価値創造のニーズに応える共創活動を行っています。



<https://sea.workmill.jp/>



<https://cue.workmill.jp/>



<https://bee.workmill.jp/>



<https://tie.workmill.jp/>

働き方改革につながる支援を目的として、「はたらく」を中心とするテーマでイベントやワークショップなどを開催しており、社内企画だけでなく外部企画の共催・協力など、外部のパートナーとも連携して活動を進めています。2022年度は対面・オンラインの両方でイベントを開催しました。オンラインでは、共創空間を開設している地域以外の多くの方にもご参加いただき、また、対面開催のイベントやワークショップでは、参加者同士の共創の輪を広げることができました。

TOPICS

「勝手に」大阪・関西万博を盛り上げる「demo!expo」への参画

WORK MILL では、個人や団体に関わらずどんな人も万博の主人公になることを目指す「demo!expo（デモエキスポ）」に参画しています。「demo!expo」は、2025年の大阪・関西万博（EXPO2025）の認知拡大と啓発を目的とし、そして万博を活用して街を盛り上げたいという思いを持ったチームで、企業の垣根を越えて集まる非公式の活動体です。

「街からもうひとつの万博を作ろう」をコンセプトに、現状より柔軟性のある万博参加の仕組みをつくることで、関西を盛り上げるだけでなく、関わる全ての人々が一緒に楽しめる万博を目指します。

2022年春からは、EXPO2025に興味がある人、参加したい人々が集まり語りイベント「EXPO酒場」プロジェクトがスタートしており、オカムラからはOpen Innovation Biotope“bee”のコミュニティマネージャーである岡本栄理が「demo!expo」メンバーとして参画。2022年12月に開催された「EXPO大酒場」では、会場に「本音」を引き出すための仕掛けとして「入門」「実践」「公式」「地域」「エンタメ」のブースを設け、それぞれに「店長」が常駐し、参加者同士の新たな出会いを生み出しました。岡本は万博のことをまだあまり知らない人が訪れる「入門」ブースの店長を務めました。「EXPO酒場」は万博関係者と一般の方が分け隔てなく意見を交わす交流の場であり、さまざまなプロジェクトが生まれる場になっています。



「EXPO大酒場」の参加者

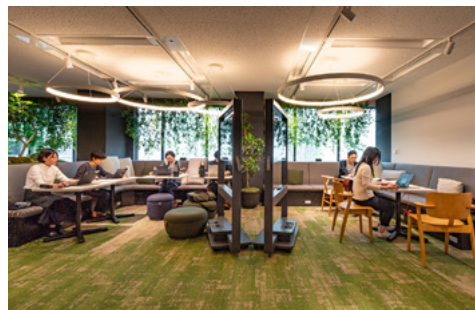
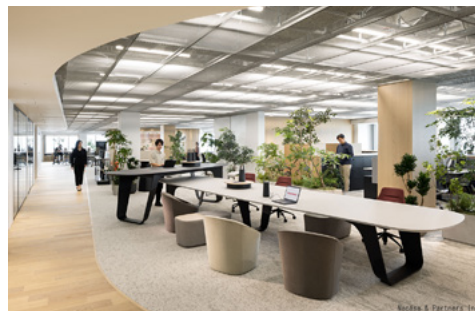
さまざまな環境の構築と提案

「人と人が活かし合う」社会の実現に向けた オフィス「We Labo (ウィラボ)」をオープン

東京都千代田区紀尾井町にあるオカムラのオフィス「HEADQUARTERS OFFICE」を2022年8月にリニューアルしました。

オフィス出社とテレワークを組み合わせたハイブリッドワークの広がりなど働き方の変化に合わせて、オフィスの機能や使い方も変わってきています。オフィスなどリアルな場に集まって仕事をする中で、雑談といった偶発的なコミュニケーションや顔を突き合わせることによる感情の共有が行われ、オフィスにはコミュニケーションを促す環境が求められています。

リニューアルしたオフィスは、オカムラの経営理念を体系的に整理した「オカムラウェイ」の根幹にある「人が活きる」という価値観を体現しました。新しい働き方や環境を実験・検証する働き方改革の実践の場「ラボオフィス」の一つとして、職種、地位、世代、ジェンダーなどの違いを力に変え、個性と個性がつながり合うことによって最大化される「わたしたち」としてのアイデンティティを生み出します。オカムラではそれを「アイデンティティ」と呼び、このオフィスを「We Labo (ウィラボ)」と名付けました。従業員一人ひとりが自分の個性を発揮でき、他者としなやかにつながりコミュニケーションを通して働きやすい環境をつくり、「人と人が活かし合う」働き方を目指します。




さまざまな空間構築の事例を紹介


オカムラでは、空間づくりの支援に取り組んだ事例を、冊子やウェブサイトにて紹介しています。

オフィス環境事業の分野では、オフィスをはじめ公共施設や文化施設などの納入事例について、プロジェクトが発足した背景や、お客さまの課題・要望に対しオカムラのデザイナーが実際に行った提案、構築した空間を紹介する「Design Stories (デザインストーリーズ)」、プロジェクトに参画したお客さまのインタビューなどを空間とともに紹介する「bp.+ (ビーピードットプラス)」をウェブサイトで紹介しています。商環境事業の分野では、スーパーマーケットや商業施設の納入事例を隔月で紹介する『Stores of the Month』という冊子を発行しています。また、物流システム事業分野では、機器を納入した物流倉庫などの事例を業態別にウェブサイトで「納入事例」として紹介しています。お客さまにより具体的な空間イメージを持っていただくとともに、時代の変化やニーズに合った空間構築の支援ができるよう、情報発信に努めています。

● Design Stories (デザインストーリーズ)

 デザイナーの提案や構築した空間を紹介
<https://www.okamura.co.jp/office/works/>

● bp.+ (ビーピードットプラス)

 プロジェクトに参画したお客さまのインタビューなどを空間とともに紹介
<https://www.okamura.co.jp/service/bp/>

● Stores of the Month

隔月でプロジェクトや店舗空間の特徴を多くの写真と文章で紹介する冊子



● 物流システム納入事例

 製造業や流通業のお客さまへの納入事例をコンパクトに紹介
<https://www.okamura.co.jp/mhs/casestudy/>